



いづみ

No.90

街なかの美を守ろう

(題字 國松 明日香)

自作自選 60



藤原 千也

(2ページに「作者の言葉」)

木が感じてきたこと、光、全て僕も感じたい。願わくば、それを見たい。いつしか木の外側を彫ることが、生命感を削(そ)いでいるように感じて出来なくなり、内側を潜りながら掘るようになった。木屑にまみれ、潜りながら、やっと木の魂に触れられた気がしたと同時に、木の持つ果てしない宇宙的なつながりと広がり、安堵と孤独を感じたことが忘れられない。この作品は、木の内側に太陽の光を見ることを願って制作した。光だけは奥まで届いてくれる。この光にどんな未来を見れば良いのか、実はまだ分からずにいるが、手探りで探し続けたいと思う。(十勝管内中札内村在住)

タイトル : 太陽のふね
 制作年 : 2024年
 素材 : 木(カラマツ)
 サイズ : H380×W480×D1830 cm
 設置場所 : 札幌芸術の森美術館
 中庭(2027年まで)

「宝物がいっぱい」

業務係 常見 尚子

本郷新記念札幌彫刻美術館で働き始めて3ヵ月になります。もともと絵画を観ることが大好きでしたが彫刻に関してはあまり興味がなく、西洋の彫刻は西洋史を学ぶ資料として、中学の国語の教科書に載っていたジャコメッティが印象に残る程度でした。そんな私が今では彫刻に夢中になっています。

きっかけは本郷新の作品と彼が残してくれた作品に対する多くの言葉、彫刻に対する言葉を読むことができたからです。作品一つ一つに作者が込めた思いが詰まっていることを教えてもらいました。

また、勤めだしてすぐに「第4回本郷新記念札幌彫刻賞受賞記念 藤原千也展 生まれようとした時の光をみたい」が始まりました。展覧会の準備のために何度も来館された藤原さんに直接お目にかかり話を聞いたり、梅村尚幸学芸員から作品の見どころ、材料、注意点などを説明していただきました。

藤原さんのお人柄にも触れる事ができ、自分一人では気付かない作品への思い、材料へのこだわりなど新しい発見の連続です。また、お客さまからのアンケートを見せて頂くのがとても楽しいです。

年齢も小さいお子さんから人生の大先輩まで幅広く、10代の高校生の瑞々しい感性や80代の方が体験してきた経験からの重く考えさせられる感想などに触れる事ができました。

ここ札幌彫刻美術館は毎日が発見、驚き、感動、喜びが溢れ、作品はもちろんいろいろな人との出会いもあり宝物がいっぱいあります。自然が豊かで四季折々を楽しめる環境にあるこの素敵な場所を一人でも多くの方に知っていただくお手伝いが少しでもできますように。



「いずみ」90号に際して——公共彫刻は永遠か

本郷新記念札幌彫刻美術館館長 吉崎 元章

「いずみ」が90号を迎えた。2002年9月創刊なので、21世紀を迎えてすぐのころから、年4回、ずっと出し続けてきたことになる。彫刻に特化した情報が綴られた会報として、いまや全国的にも貴重な存在となっていることは間違いない。

北海道の公共彫刻も、ちょうど世紀の変わり目のころを境にして、新規の設置がめっきり減っている。つまり、現在、街なかにある彫刻のほとんどが、「いずみ」創刊前の、20世紀後半の遺物とも言えるのである。それらをよりよい状態に保つために、補修や清掃が不可欠なのは言うまでもないが、だからこそ、そこに歴史の重みだけではなく、いかに普遍性と現代的な価値を見出していけるかが問われてくるのだ。

北陸銀行屋上にあった山内壮夫の《鶴の舞》。北海道銀行本店の本郷新、山内壮夫、佐藤忠良の共作によるレリーフ《大地》。最近、慣れ親しんできた彫刻の撤去が相次いでいる。老朽化による建物取り壊しにともない、そこに付随していた彫刻が居場所を失ったのだ。前者は北陸銀行豊平支店前に移設され、後者は木箱に仕舞われ、再び設置できる場所が見つかるまで大切に保管されるという。いずれも両銀行の文化に対する高い見識によって、廃棄を免れたのは救いだ。

しかし、これまでも、いつの間にか、なくなってしまった彫刻がいくつもあった。再開発や経営方針の変更のほか、彫刻自体の劣化による場合もある。今後そうしたケースがますます増えてくるのは目に見えている。

そうしたなか、昨年10月21日にとっても気になる報道があった。大通公園の再整備が検討されており、公園内に点在する彫刻を西10丁目から12丁目に集結して、「歴史と文化を伝承するエリア」にするというのだ。それにはかなりの賛否があるだろう。札幌市の担当者に聞くと、あくまでもひとつの案が独り歩きしたようなのだが、確かにいま、街なかの彫刻のあり方について、真剣に考えなければならない時期に来ているのかもしれない。

彫刻がいつまでも同じ場所にあり続けることが、作品にとって、そして住民にとって、本当に幸せなことなのだろうか。一般論として、反対意見があることを承知ですこし過激なことを言うならば、将来のことを考え、ある時点で作品を淘汰する必要もあるのではないだろうか。公共空間内に作品を置くことができるスペースは限られている。そこを過去の彫刻家たちの作品で占有するのではなく、新しい作家たちにもチャンスを与え、活性化すべきだという考えもあろう。

そうしたことを含め、ただ現状を保つことに注力するだけではなく、長期的視野に立って、人を中心とした、より魅力的な公共空間づくりのための積極的で慎重な議論が必要になってこよう。

「いずみ」においてもまた、彫刻の魅力とともに、こうしたその時々々の動向や多様な意見を記録、発信し、皆で考えていく媒体として、これからも末永く続いてほしいと切に願っている。

会報「いずみ」のアーカイブ

会報「いずみ」が創刊から 90 号に達した。2002 年以來、年 4 回発行を守って 22 年。「いずみ」は友の会の出来事が収載されたアーカイブ（収蔵庫）。これまでの「いずみ」から収蔵資料のいくつかをピックアップした。
(文責 大内 和)

題字は不変

(No.50 2015/1)

「いずみ」の題字は 2002 年の創刊号から不変。題字は友の会の顧問で北海道を代表する彫刻家・國松明日香さんの揮毫。2015 年、50 号の特集で國松さんは当時の橋本信夫会長に依頼された時の思い出を書いている。「本郷新の作品のタイトルは《泉》と漢字でしたが、ひらがなでお願いしますということでした。漢字に比べひらがなは難しいと思いました。半紙を前に格闘すること小 1 時間。いまでも『題字・國松明日香氏』を見るたびに冷や汗をかきます」。

「本郷新彫刻シリーズ」

(No.1 2002/9~No.30 2010/1)

創刊以來、30 号までの表紙を飾ったのが元会員故・仲野三郎さんの写真「本郷新彫刻シリーズ」。全道を隈なく回って撮影した写真に解説を添えた労作だった。

<泉の像><戦没学生記念像 わだつみのこえ><氷雪の門><花束><雪華の像><不死鳥><石川啄木像><奏でる乙女><緑の環><牧歌><躍進><鳥を抱く女><石狩一無辜の民><太陽の母子><嵐の中の母子像><叡智の誕生><風雪の群像><リズム><オホーツクの塔><ブラキストン記念碑><勇払千人同心><朔北の母子像><石川啄木><小林多喜二文学碑><農神><道東の四季・冬><北の母子像><太陽の手><九人の乙女の碑><荻伏開拓功労者の像>

知名度調査

(No.3 2003/4)

「札幌彫刻美術館の知名度」の記事が載ったのは 3 号。友の会が大通公園で行ったアンケート調査の結果で、「彫刻美術館を知っている」が 33%、「行ったことがある」は 11.4%。結果について、「市民の約 3 分の 1 が美術館を知っていたが、実際に訪れた人は市民の 1 割強に過ぎない。(中略) 国際文化都市をうたう札幌の名を冠し、郷土の誇りとする本郷新の作品を収蔵する美術館として小規模とは言え、この知名度と入館率では物足りない」と厳しい。本郷新の知名度についても「《泉》の像周辺での調査だったにも関わらず 22.1%で美術館の知名度よりも少なかった」と嘆く。

友の会名称は不変

(No.31 2010/4)

2007 年、美術館は「財団法人札幌彫刻美術館」から現在の「本郷新記念札幌彫刻美術館」に名称変更した。その際、友の会の名称も館名に合わせて「本郷新記念札幌彫刻美術館友の会」に改めるかどうか議論になったが、従来通りとした。その訳を橋本会長（当時）が巻頭言に「札幌彫刻美術館友の会一名前が変わらないわけ」として執筆した。

「私たちが支援していた『財団法人札幌彫刻美術館』はなくなりました。こうした事態を受け、友の会は検討の結果、最終的に名前を変えず、私たちは単に本郷新記念札幌彫刻美術館の支援団体だけにとどまらず、幅広い観点で会の活動を心がけたい。(中略) 友の会は、国際文化都市・札幌にふさわしい市民文化運動の拠点として、本郷新にこだわることなく、彫刻芸術の振興活動に幅広く展開するため、あえて『札幌彫刻美術館友の会』の名前にこだわって行きたい」(要旨)

表紙「自作自選」

(No.31 2010/4~)

「本郷新彫刻シリーズ」に代わって 31 号から表紙の顔となった。彫刻家にとって節目となった彫刻、忘れられない思い出の作品などを作家自身に選んでもらう企画。本道を代表する作家、気鋭の作家などに依頼して自作を語ってもらった。

國松明日香、小野寺紀子、板津邦夫、米坂ヒデノリ、伊藤隆道、檜原武正、伊藤寿朗、阿部典英、川上りえ、浅井憲一、水谷のぼる、渡辺行夫、安田侃、中江紀洋、川名義美、菅原尚俊、松本純一、椎名澄子、田中隆行、谷口顕一郎、二部黎、國松希根太、藤沢レオ、葦澤淳一、藤本和彦、千代明、岸本幸雄、ダム・ダン・ライ、上ノ大作、唐牛幸史、加藤宏子、永野光一、山谷圭司、松隈康夫、鴻上宏子、秋山知子、伊藤隆弘、澤田正文、梅田力、鈴木吾郎、向川未桜、水野智吉、菅原義則、山本良鷹、井越有紀、神田比呂子、水口司、花輪大輔、熊谷文秀、大原央聡、岡本空、橋本諭、寺田栄、岩永啓司、丸山恭子、中村修一、桂充子、井越有紀、内藤満美 (以上、掲載順、敬称略)

第 3 回「さっぽろ環境賞特別賞」受賞

(No.37 2011/10)

2011 年 7 月、友の会が野外彫刻清掃活動などに長年にわたって努力した結果が認められての受賞。会創設 30 周年の嬉しい贈り物になった。日ごろ提唱している「街なかの美を守ろう」運動を通して野外彫刻を守り、清掃方法の研修や保全技術の普及活動、彫刻のデータベース化への先進的な取り組みが評価された。橋本信夫会長が札幌市の生島典明副市長から賞状を受けた。



「市民の愛蔵彫刻展—魅せます私のコレクション」

(No.41 2012/10)

市民が秘蔵しているお宝を公開してもらうユニークな企画展「市民の愛蔵彫刻展—魅せます私のコレクション」は友の会設立 30 周年記念企画として本郷新記念札幌彫刻美術館で 2012 年 8 月 29 日から 9 月 2 日まで開かれ、550 人超の入館者があった。「いずみ」では写真グラフ、来場者アンケート、さらに 42 号では 2 誌にわたっての座談会を載せるなど力が入ったイベントだった。



シンポジウム 2015「野外彫刻を創る・守る」開催

(No.54 2016/01)

2015 年 10 月 4 日、道立近代美術館講堂を会場に開かれた友の会主催のシンポジウム。屋外彫刻調査保存研究会の藤嶋俊會会長、黒川弘毅事務局長(武蔵野美大教授)、橋本信夫友の会会長らが寺嶋弘道道立近代美術館学芸副館長の司会で地域の文化遺産の保存の在り方をテーマに話し合った意義ある催しとなった。(肩書は当時)



「いずみ」の既刊号は友の会のホームページでも見ることができます。

友の会顧問

「國松明日香展」開催
らいらっく・ぎやらりい

友の会の顧問で彫刻家の國松明日香さんが新装なった「らいらっく・ぎやらりい」(大通西2ほくほく札幌ビル)で10月2日から14日まで



「國松明日香展 with Kelly Detweiler」を開いた。

道銀文化財団主催の「ARTIST BANK2024」の一環で、北海道の芸術界をけん引する芸術家の作品鑑賞シリーズの7回目。

展覧会は國松さんの長い友人で米国在住のケリー・デトワイラーさんとの二人展。

國松さんは「雲の夢」(A)(B)(C)ほか「sea breeze #3」など7点を出品した。

ステンレス鋼を使った國松さん独特の作品が来館者の目を楽しませた。ケリーさんはアクリル画「woman in yellow」ほか版画なども交えて出品した。

大通公園で彫刻解説
「ちえりあ」受講生に

札幌市生涯学習総合センターからの依頼で10月11日、大通公園で彫刻解説をした。同センターの「大通・創成川公園の魅力再発見！」の受

講者、スタッフ合わせて36人が対象。2グループに分けて、《漁民之像》、《希望》などを高橋大作会長、松原安男さん、小笠原悦子さん、細川房子さんら2チームに分かれ、2時間ほどかけてそれぞれの彫刻の見所、作者のエピソードなどを交えて解説した。

夏の彫刻清掃

ベストで爽やかに！
友の会マークもばっちり

会員が夏のシーズン、野外で彫刻清掃などの活動をする際に着用するベストが出来上がった。

友の会のシンボルマークの<泉>像を前面左胸と背中に大きくあしらったデザインで、蛍光グリーン色が遠くからでも鮮やかに目につきPR効果満点。頒価2000円。希望者は細川房子さん(090-9435-2551)まで。



羊ヶ丘展望台65周年
<丘の上のクラーク>清掃
展望台の依頼を受けて

札幌・豊平区の「さっぽろ羊ヶ丘展望台」の65周年イベントが行われた9月14日、同展望台からの依頼で、友の会がシンボルの《丘の上のクラーク》(坂垣道)の清掃を行った。

観光客が入場する前に清掃するため午前7時半からの作業。高橋大作会長をはじめ5人が台座を含め高さ5

mほどあるクラーク像に高圧洗浄機で洗浄液を吹き付けたあと、水洗いで汚れを洗い落とした。作業には近くにいた若い人たちも加わ



った。

この様子はNHKと北海道新聞が取材、NHKは当日の昼のニュースで、道新は16日の紙面で取り上げた。

本郷新記念札幌彫刻美術館
サンクスデー
友の会が彫刻清掃を支援

「洗って味わう 彫刻のカタチ」をテーマに10月14日に行われた彫刻美術館の「サンクスデー」に参加した友の会は来館者15人と本館前庭の<わだつみの声>

<砂>、<堰> <裸婦>の4体の清掃を行った。水洗いのあと、ブラシを使って洗剤で丁寧に汚れを落とした。磨き上げると参加者から「こんなにきれいになるなんて」「友の会がいつもきれいに行っていることを知った」「参加できて良かった」などの声が聞かれた。



お疲れさまでした！

2024年の彫刻清掃終了

11回、36体、延べ160人
参加 来年も頑張りましょう

2024年度の彫刻清掃活動が10月14日に催された「サンクスデー」（本郷新記念札幌彫刻美術館主催）で終了した。

担当した小笠原悦子さんによると今年度は全部で11回の清掃活動を行い、延べ36体の彫刻を洗浄した。参加者は延べ160人を数えたという。

6月には会員からの提案で北区・新琴似の安春川散策路にある《夏の日》（土田副正）を初めて清掃した。これまで一度も手入れをしたことがない彫刻らしく、汚れを落とすのに苦労したという。



大通公園の彫刻清掃は7月と9月の2回行われた。共に札幌大通公園ロータリークラブと藤女子大生で作る「ちょうこくみがき隊」のメンバーが参加した。

7月には STV が札幌市の広報番組として取材に入り、テレビで放送された。また、9月は《漁民之像》《若い女の像》などの清掃をしたほか、藤女子大生が彫刻の解説を行い、日ごろの勉強ぶりを披露した。

8月の清掃は渡島管内長万部町の町教委からの依頼で同町にある「平和祈念館」の《北の

母子像》（本郷新）の清掃指導を行った。町役場職員8人が参加して清掃体験をした。

また、9月には、さっぽろ羊ヶ丘展望台の65周年記念に合わせてクラーク像の清掃を依頼された。その様子はNHKや道新でも報道された。

一年間の清掃活動を振り返って小笠原さんは「友の会の活動を通して彫刻清掃の輪が広がってくれば」と期待していた。

本郷新記念札幌彫刻美術館
「おしゃべり美術部レター」発行
美術作品の鑑賞力を育てる

本郷新記念札幌彫刻美術館が昨年8月に立ち上げた、美術作品の鑑賞をみんなでおしゃべりをしながら楽しむ「札幌おしゃべり美術部」の「美術部レター」第2号が発行された。



11月に行われたおしゃべり美術部の第2回鑑賞ワークショップを体験した札幌市立啓明

中学校2年生が本郷新作品を鑑賞した感想や解説文を寄せている。

2年生7人が本郷作品の《打つ》《駄々っ子》《泉》《嵐の中の母子像》などを鑑賞し、思い思いの感想を寄せた。《泉》像の空に伸びたバレリーナの手の表現に注目した生徒や《嵐の中の…》の子供を抱いた母親の足元に子供を守る母の力を感じたという感想など、レベルの高い感想文が載っている。

（美術館のウェブサイトで見ることができる）

「ぶらり札幌彫刻めぐり」
再版300冊発行

図書館などに寄贈

友の会は2023年に刊行した彫刻ガイド「ぶらり札幌彫刻めぐり」の再版、300冊を発行した。



2018年から20年にかけて北海道医療新聞社の雑誌「ケア」に24回連載した「さっぽろ野外彫刻美術マップ」を冊子化したもの。

ハンディなB6版サイズ、90ページ。札幌市内を14地域・ブロックに分け、点在する主要な彫刻作品を写真と解説で紹介した。

再版では背表紙に書名を入れたほか、初版の誤字脱字、作家略歴のデータ修正を行った。1冊500円。問い合わせは奥井さん（090-1527-9009）まで。

事務局日誌▼24年9月14日＝羊ヶ丘展望台65周年《丘の上のクラーク》像清掃▼30日＝札幌市教委から来年度補修予定の彫刻3体の連絡▼10月6日＝北海道芸術文化アーカイヴセンターのシンポジウムに橋本名誉会長ほか参加▼10日＝定例役員会(エルプラザ)「いずみ」90号企画、「ちえりあ」委託の彫刻解説実施要領など▼14日＝彫刻美術館「サンクスデー」参加▼11月14日＝定例役員会(かでの2・7)24年彫刻清掃活動報告、24年度活動全般反省など。

編集後記▼「いずみ」90号をお届けします。創刊以来22年、ここまで欠号なしにたどり着くことが出来ました。何といても情報提供や原稿依頼、執筆、さらに完璧な校閲作業などで多くの会員、また、外部の関係者の方々の支えがあったること。心から感謝申し上げます▼11号から編集に携わって来ましたが、マンネリ感も否めず、次号からの編集を新たに美術に造詣の深い梁井朗さんに引き継いでいただくことに。長い間お世話になりました。(大内)

札幌彫刻美術館友の会
 会報「いずみ」 No.90
 2025年1月1日発行
 発行人 高橋 大作
 編集者 大内 和
 札幌市清田区清田5-4-6-30
 011-884-6025
 印刷 山藤三陽印刷

会報「いずみ」90号 目次		
自作自選60	《太陽のふね》	藤原 千也・・・表紙
宮の森の四季60	「宝物がいっぱい」	常見 尚子・・・2
風見鶏	「いずみ90号に際してー」	吉崎 元章・・・3
特集「会報いずみのアーカイブ」		大内 和・・・4
友の会ニュース		6-7
國松明日香展／大通公園で彫刻解説／夏の彫刻清掃にベスト／丘の上のクラーク像清掃／彫刻美術館サンクスデー／2024年彫刻清掃終了／おしゃべり美術部レター／「ぶらり札幌」再版		
事務局日誌／編集後記／目次／美術館行事予定ほか		8

本郷新記念札幌彫刻美術館行事予定

本館

■第4回本郷新記念札幌彫刻賞受賞記念
藤原千也展—生まれようとした時の光をみたい
 開催中～2025年1月26日(日)

第4回本郷新記念札幌彫刻賞を受賞した藤原千也(1978年、札幌生まれ、中札内村在住)の作品展。木の持つ魂の感受を求めて巨木の内部に潜り込み、ひたすらに斧やノミで削って制作した作品や流木を用いたインスタレーションなどの最新作を展示する。

■貸館 2月8日(土)～2月23日(日)

■コレクション展 本郷新彫刻の設計図リターンズ(仮称)
 3月8日(土)～5月25日(日)

記念館

■コレクション展 2024—2025
 開催中～2025年5月25日(日)

■さっぽろ雪像彫刻展
 1月24日(金)～26日(日)

本郷新記念札幌彫刻美術館
 札幌市中央区宮の森4条12丁目
 ☎011-642-5709

友の会ホームページ公開中です！ご覧ください
<https://sapporo-chokoku.jp>